Ⅱ．助産婦業務について

1．妊娠・分娩管理について

1）妊娠期間中の健診回数

回答項目	回答数	割　合
a.　ー5回	20	9.57%
b.　6ー10	71	33.97%
c.　11ー15	86	41.15%
d.　16ー20	27	12.92%
e.　21ー25	1	0.48%
f.　26回ー	4	1.91%
計	209	100%

（無回答27）

10回以下が91件であった。これは有回答の43.5%にあたる。
産婦人科病・医院における標準的な受診回数と比較して少ないように思われる。
11から15回が86件であり、有回答の41.1 %となる。

2）一般健診（諸検査）　　（複数回答）

回答項目	回答数	割　合	
a.　超音波検査	180	76.30%	
b.　分娩監視装置	94	39.80%	
c.　血液検査	138	58.50%	（嘱託医の指示による）
d.　その他の検査	89	37.70%	（嘱託医の指示による）
回答件数	236		

超音波検査

回答項目	回答数	割　合
ドップラ法	130	72.20%
超音波断層法	72	40.00%
回答件数	180	

180件76.3 %が超音波検査を行っていると回答している。
その内72件40%が超音波断層法であり、他はドップラー法であった。
結局全体の30.5%が超音波断層法を行っている。

c.　嘱託医の指示により行っている、血液検査の内容　（回答件数：121件）

すべて医師依頼	48	ATL	18
一般検査	11	風疹	17
血型	21	クラミジア	7
CBC	50	トキソプラズマ	8
肝機能	3	不規則抗体	3
感染症	5	新生児ガスリー	7
HB	28	新生児の血型	2
HCV	26	新生児ﾋﾞﾘﾙﾋﾞﾝ	2
梅毒	26	その他（甲状腺機能、単純ヘルペス）	
HIV	22		

d. 嘱託医の指示により行っている、その他行っている検査　(回答件数：75件)

医師に依頼	16	X線	2
尿血圧	14	心電図	1
GBS	9	細胞診	4
NST	6	HIV	1
分泌物検査	12	血糖	2
クラミジア	11	新生児ガスリー	6
ECHO	6	新生児代謝異常	3

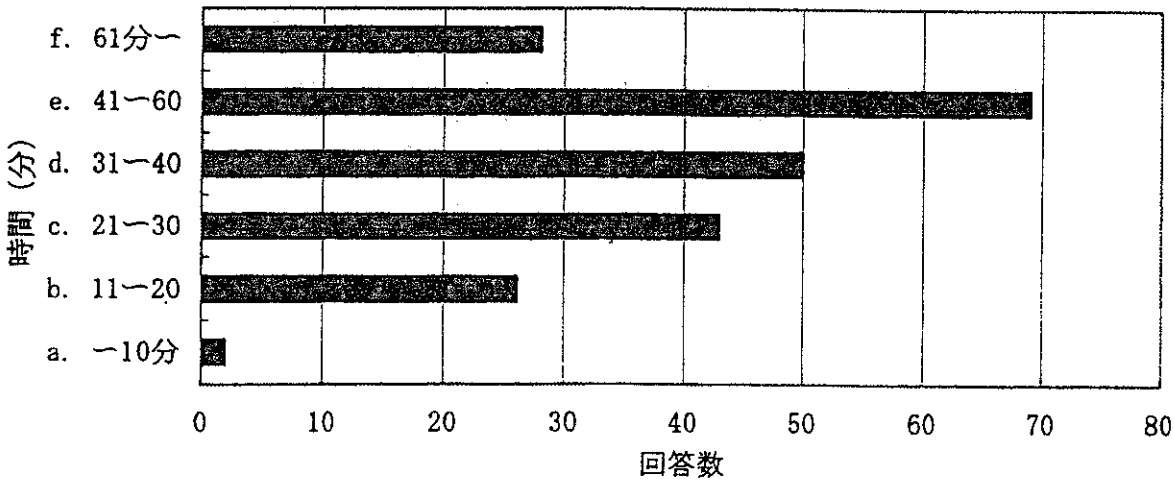
3）妊婦一人当たりどれくらいの時間をかけていますか

回答項目	回答数	割　合
a. ー10分	2	0.92%
b. 11ー20	26	11.93%
c. 21ー30	43	19.72%
d. 31ー40	50	22.94%
e. 41ー60	69	31.65%
f. 61分ー	28	12.84%
計	218	100.00%

(無回答18)

20分以内が12.85%に過ぎず、１時間以上との回答が12.84%
21から40分が42.66%、41ー60分は31.65%であった。

図-6　診察時間（一人あたり）



4）分娩予定日の決定方法　　（回答：108件、複数回答）

回答項目	回答数	割　合
a. 最終月経	180	76.30%
b. 基礎体温	41	17.40%
c. その他(※)	111	47.00%
計	332	140.70%

その他（※）の内容

医師	53
外診	1
CRL	16
ｴｺｰ	40
胎動	7

5）健診費用　　（再区分）

金　額	回答数	有回答の割合	金　額	回答数
1000円	2	1.02%	1000円以下	2
1500円	2	1.02%	2000円以下	21
2000円	19	9.69%	3000円以下	95
2500円	5	2.55%	4000円以下	56
3000円	90	45.92%	5000円以下	21
3500円	30	15.31%	6000円以下	1
3700円	1	0.51%		
4000円	25	12.76%		
5000円	21	10.71%		
6000円	1	0.51%		
計	296	100%		

（無回答40）

健診の費用は1000円から6000円と幅広い。

2000円以下が11.7%、3000円と3500円が61.23%、4000円以上が23.9%であった。

6）分娩誘発・促進の有無（嘱託医師の指示による）

回答項目	回答数	有回答の割合
a. あり	16	7.70%
b. なし	191	92.30%
計	207	100%

（無回答29）

なしが92.3 %を占めた。ありは16件7.7%。

分娩誘発・促進がありの場合、注射は　　（複数回答）

回答項目	回答数	割　合
① 医師	8	50.00%
② 助産婦	7	43.80%
③ その他	0	0.00%
回答件数	16	

ありと回答のあった16施設中７件は助産婦が行っている。

7）分娩時、分娩監視装置を使用する

回答項目	回答数	有回答の割合
a. す る	50	24.30%
b. しない	156	75.70%
計	206	100%

（無回答30）

分娩監視装置を使用していないのは75.7%、使用しているは24.3%に過ぎない。

使用する場合、頻度は

回 数	回答数	割 合
1回	11	32.35%
2回	11	32.35%
3回	9	26.47%
4回	1	2.94%
5回	1	2.94%
計	33	100.00%

（無回答17）

分娩中の使用回数が１ー２回との回答が64.7%であった。

8）会陰裂傷の縫合は（緊急時の）

回答項目	回答数	有回答の割合
a. あ り	107	53.80%
b. な し	54	27.14%
c. その他	38	19.10%
計	299	100.00%

（無回答37）

補足の記述（57件）

医師を呼ぶ	13
クレンメなどで	43
縫合する	1
会陰裂傷なし	6

切れたことがないとの回答もみられた。

9）異常出血時の対応として子宮収縮剤の使用は（嘱託医師の指示による）

回答項目	回答数	有回答の割合
a. あ り	156	76.50%
b. な し	48	23.50%
計	204	100%

（無回答32）

48（23.5%）がなしと答えている。

10）会陰切開を施行しているか

回答項目	回答数	有回答の割合
a. あ り	11	5.20%
b. な し	200	94.80%
計	211	100%

（無回答25）

会陰切開を行っているのは11件5.2%に過ぎなかった。

11) どんなポジション、スタイルが多いか（複数回答）

回答項目	回答数	割　合
a. 仰臥位	101	42.80%
b. その他	137	58.10%
計	236	100.80%

その他のポジション、スタイル　（複数回答）

回答項目	回答数	割　合
① 側仰	53	38.70%
② 座位	37	27.00%
③ ナチュラル	61	44.50%
計	137	

12) スタッフは何人か（含本人）

人数	常勤助産婦	非常勤助産婦	常勤看護婦	非常勤看護婦	その他の職員
1人	127	74	16	17	49
2人	44	29	3	2	24
3人	8	15	1	1	13
4人	3	6			6
5人		6			4
6人		2		1	
計	182	132	20	21	96

無回答、０人との回答は除外した。

常勤助産婦は一人が過半数であった。非常勤助産婦ありは132施設。

常勤看護婦のいるところが20件、非常勤看護婦のいるところが21件であった。

その他の職員のいるところが96件であった。（重複あり）

補足）

分娩中の処置のまとめ（%）

	あり	その他	なし
分娩中血管確保	76	0	24
分娩誘発・促進	7.7	0	92.3
分娩監視装置	24.3	0	75.7
会陰切開の有無	5.2	0	94.8
会陰裂傷の縫合	53.8	19.1	27.1
子宮収縮剤使用	76.5	0	23.5

回答のあったものの内、ありなしを単純に表した。

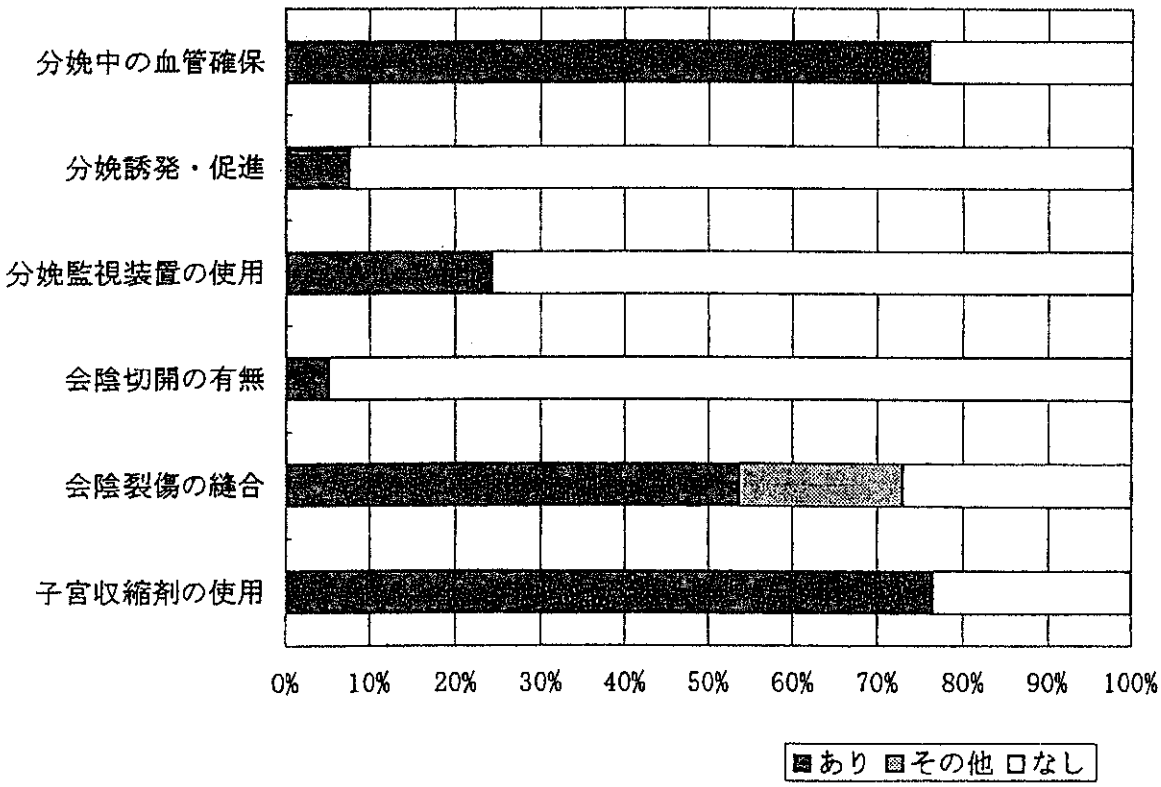
医療処置に関するものは原則として医師の指示による。

子宮収縮剤投与、裂傷の縫合、血管確保は過半数の施設で行われている。

分娩監視装置の使用頻度は低い。

会陰切開、陣痛誘発は低かった。

図-7　分娩中の処置



補足）年齢群別分析

年齢分布で70歳以上の多いことが目立っていたので、年齢群別にクロス集計を行った。

年齢群と分娩の取り扱い

	分娩の取り扱い		
年齢群	あり	なし	総計
20歳代	1	1	2
30歳代	26	2	28
40歳代	36	3	39
50歳代	45	1	46
60歳代	37	2	39
70歳ー	77	3	80
総計	223	12	235

分娩の取り扱いは年齢群間に差が認められなかった。

年齢群と年間妊娠分娩数

	年間妊娠分娩数						
年齢群	0	1ー10	11ー30	31ー50	51ー70	71ー	総計
20歳代						1	1
30歳代	4	13	3	1			21
40歳代	5	11	6	4	1	3	30
50歳代	10	7	7	4	1	8	37
60歳代	2	7	5	7	3	3	27
70歳ー	5	14	14	4	2	9	48
総計	26	53	35	20	7	24	164

年間妊娠分娩数は各年齢群間にあまり差が認められなかった。

年齢群と診察時間

	時　間						
年齢群	ー10分	11ー20	21ー30	31ー40	41ー60	61分ー	総計
20歳代			1				1
30歳代			2	6	11	7	26
40歳代		2	4	10	11	9	36
50歳代		3	10	9	18	5	45
60歳代		4	11	10	11	2	38
70歳ー	2	17	15	15	17	5	71
総計	2	26	43	50	69	28	217

一回の診察にかける時間は年齢群間に差が認められなかった。

年齢群と超音波検査実施の有無

	超音波検査の実施			
年齢群	あり	なし	総計	あり%
20歳代	1	1	2	50
30歳代	24	4	28	85.7
40歳代	31	8	39	79.5
50歳代	42	4	46	91.3
60歳代	31	9	40	77.5
70歳ー	51	29	80	63.8
総計	180	56	235	76.3

70歳以上の群でやや低い実施率であった。

年齢群と分娩監視装置使用の有無

	分娩監視装置			
年齢群	あり	なし	総計	あり%
20歳代		2	2	0
30歳代	11	17	28	39.3
40歳代	25	14	39	64.1
50歳代	31	15	46	67.4
60歳代	13	27	40	32.5
70歳ー	14	66	80	17.5
総計	94	142	235	39.8

70歳以上の群で低い実施率であった。
40歳・50歳代では2/3が実施している。

年齢群と分娩誘発の有無

	分娩誘発			
年齢群	誘発あり	誘発無し	計	あり%
20歳代		1	1	0.0
30歳代		25	25	0.0
40歳代	4	31	35	11.4
50歳代		43	43	0.0
60歳代	2	33	35	5.7
70歳ー	10	57	67	14.9
総計	16	191	206	7.8

年齢群と会陰縫合の有無

	会陰縫合			
年齢群	あり	なし	計	あり%
20歳代	1		1	100.0
30歳代	10	10	20	50.0
40歳代	19	9	28	67.9
50歳代	22	13	35	62.9
60歳代	18	8	26	69.2
70歳ー	37	14	51	72.5
総計	107	54	161	66.5

年齢群と収縮剤使用の有無

	収縮剤			
年齢群	使用あり	使用なし	計	あり%
20歳代	1		1	100.0
30歳代	23	1	24	95.8
40歳代	32	3	35	91.4
50歳代	29	13	42	69.0
60歳代	26	9	35	74.3
70歳ー	44	22	66	66.7
総計	156	48	203	76.8

年齢群と会陰切開の有無

	会陰切開			
年齢群	あり	なし	計	あり%
20歳代		1	1	0.0
30歳代	1	24	25	4.0
40歳代	2	33	35	5.7
50歳代		44	44	0.0
60歳代	1	35	36	2.8
70歳ー	7	62	69	10.1
総計	11	200	210	5.2

年齢群と嘱託医の年齢

	嘱託医の年齢						
年齢群	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳ー	総計
20歳代				1			1
30歳代	1	4	9	5	2	2	23
40歳代		2	17	12	2	1	34
50歳代		1	16	16	6	1	40
60歳代		2	5	10	9	6	32
70歳ー			11	22	12	14	59
総計	1	9	58	67	31	24	189

年齢群が上昇するに連れて嘱託医の年齢のモードが上がっている。

70歳以上の群とそれ以下の比較の結果は以下の如くであった。
超音波検査・分娩監視装置の使用に関してやや低いとの結果であった。
当然のことながら年齢が高くなるに連れて嘱託医の年齢も上昇の傾向を認めた。
その他、分娩取り扱い数、誘発・切開・縫合・収縮剤の使用など差は認められなかった。

2．平成12年度の妊娠・分娩について

年間取り扱い妊娠・分娩数（平成12年度）

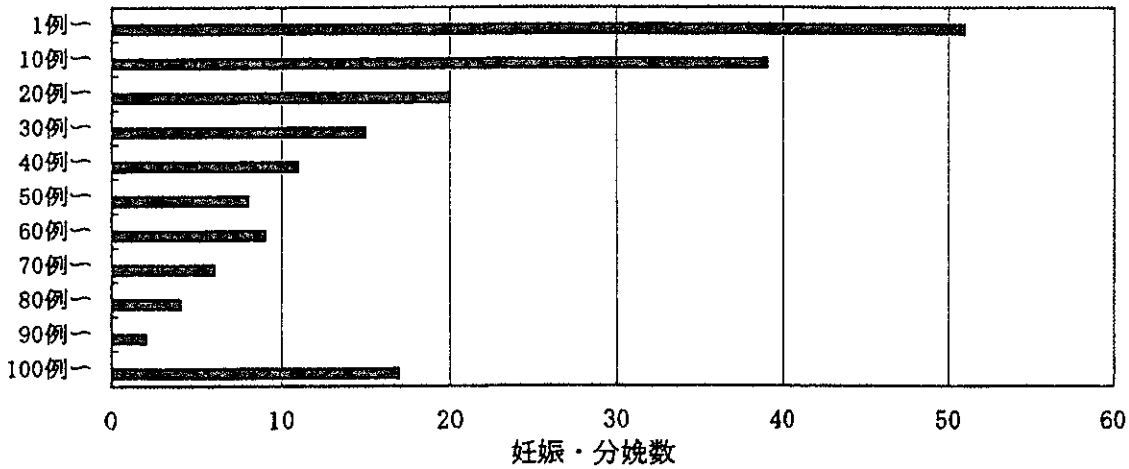
妊娠・分娩数	回答数	有回答の割合
100例～	17	9.34%
90例～	2	1.10%
80例～	4	2.20%
70例～	6	3.30%
60例～	9	4.95%
50例～	8	4.40%
40例～	11	6.04%
30例～	15	8.24%
20例～	20	10.99%
10例～	39	21.43%
1例～	51	28.02%
計	182	100%

（無回答54）

28%が年間10例未満である。

過半数が月１～５例で、月平均５例以上は38件（20.9%）に過ぎない。

図-８　年間取り扱い妊娠・分娩数



１）分娩費用

分娩費用	回答数	有回答の割合
10万円以下	3	1.99%
15万円以下	27	17.88%
20万円以下	67	44.37%
25万円以下	13	8.61%
30万円以下	22	14.57%
35万円以下	17	11.26%
35万円超	2	1.32%
計	151	100%

（無回答85）

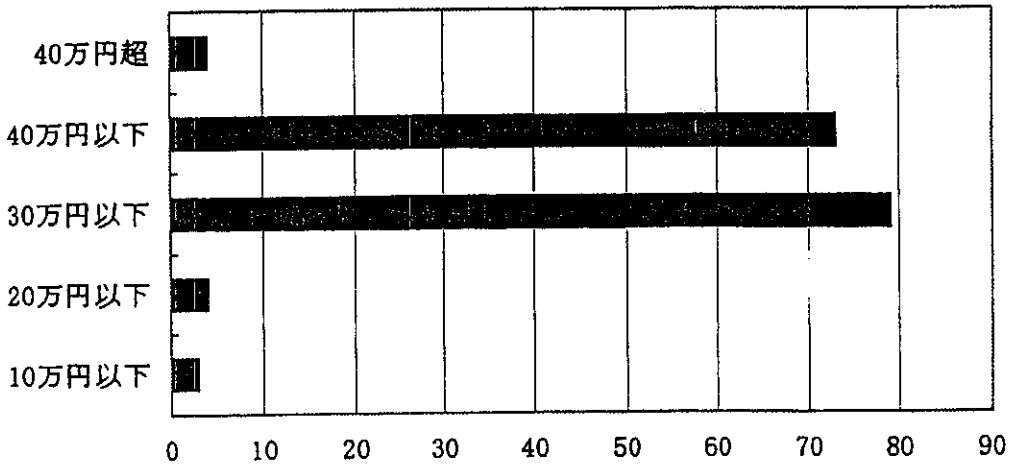
無回答が36%と多かったが、20万円以下が有回答の64.2%を占めた。

総 費 用	回答数	有回答の割合	総 費 用	回答数
10万円以下	3	1.84%	10万円以下	3
15万円以下	1	0.61%	20万円以下	4
20万円以下	3	1.84%	30万円以下	79
25万円以下	18	11.04%	40万円以下	73
30万円以下	61	37.42%	40万円超	4
35万円以下	56	34.36%		
40万円以下	17	10.43%		
45万円以下	2	1.23%		
45万円超	2	1.23%		
計	163	100%		

(無回答73)

総費用は25-30万円が37.4%，30-35万円が34.3 %となり、25-35万円で71.7%を占めた。

図-9　分娩総費用



2）入院日数　　(無回答40)

回答項目	回答数	有回答の割合
a. な　し	43	21.94%
b. あ　り	153	78.06%
計	196	100%

入院日数なしは自宅分娩のみを取り扱っている施設と思われる。

入院日数の内訳	回答数	割　合
3日	2	1.30%
4日	9	5.90%
5日	41	26.80%
6日	53	34.60%
7日	45	29.40%
8日	1	0.70%
10日	1	0.70%
計	153	100.00%

入院日数は5-7日が90%を占めた。

3）初産・経産の割合

初産	経産	回答数	割　合
90% ～	～ 10%	2	1.23%
80% ～	～ 20%	3	1.85%
70% ～	～ 30%	2	1.23%
60% ～	～ 40%	4	2.47%
50% ～	～ 50%	25	15.43%
40% ～	～ 60%	36	22.22%
30% ～	～ 70%	39	24.07%
20% ～	～ 80%	29	17.90%
10% ～	～ 90%	10	6.17%
0%	100%	12	7.41%
	計	162	100.00%

（無回答74）

初産・経産同数が25件、初産＞経産が11件、初産＜経産が114件と圧倒的に経産が多い。
経産だけ取り扱う施設が12件みられた。

4）経産の場合前回の出産は助産所、病院・医院どちらが多いか

回答項目	回答数	割　合
a.　助産所	46	23.96%
b.　病院・医院	146	76.04%
計	192	100.00%

（無回答44）

前回分娩が助産所でなく病・医院であったとの回答が３分の２であった。
助産所におけるリピーターよりも病・医院から流れる方が多い。

5）助産所のみで帰結した妊娠・分娩数（平成12年度）

回答項目	回答数	割　合
a.　0回	26	15.76%
b.　1～10	53	32.12%
c.　11～30	35	21.21%
d.　31～50	20	12.12%
e.　51～70	7	4.24%
f.　71～	24	14.55%
計	165	100.00%

30例以下が53.3%を占めた。

（無回答71）

6）契約産婦人科医に相談するも貴助産所で帰結した妊娠・分娩数（平成12年度）

回答項目	回答数	割　合
a.　0回	44	26.67%
b.　1～10	77	46.67%
c.　11～30	21	12.73%
d.　31～50	9	5.45%
e.　51～70	2	1.21%
f.　71～	12	7.27%
計	165	100.00%

（無回答71）

7）妊娠中に他施設（助産所、医院等）へ移動した数（平成12年度）

回答項目	回答数	有回答の割合
a.　0回	76	41.08%
b.　1ー10	102	55.14%
c.　11ー30	6	3.24%
d.　31ー	1	0.54%
計	185	100%

（無回答51 ）

8）分娩開始後母体搬送した数

回答項目	回答数	有回答の割合
a.　0回	108	54.00%
b.　1ー10	86	43.00%
c.　11ー30	6	3.00%
計	200	100%

（無回答36）

分娩開始後に母体搬送した症例の経験は46%

8－2）搬送理由は（妊娠中異常も含む：頻度の高い順に5つ）

分娩遷延・微弱陣痛	53	貧血	3
前期破水・早期破水	32	本人希望にて	3
出血・弛緩性出血	25	子癇	2
妊娠中毒症・高血圧	24	双胎・多胎	2
胎児仮死・心音の異常	21	臍帯脱出	2
胎位異常・骨盤位	19	てんかん	1
切迫流産・早産	18	異常な子宮痛	1
回旋異常	13	異常分娩	1
常位胎盤早期剥離	8	過短臍帯	1
予定日超過・過期産	7	子宮内反	1
前置胎盤	7	助産婦の都合で	1
IUGR	5	胎児が危うい	1
CPD	4	子宮内胎児死亡	1
高年初産	4	母体の熱発	1
癒着胎盤	4	新生児奇形	2
羊水過少	4	新生児メレナ	1
新生児黄疸	3	未熟児	1

8－3）搬送時の説明で困ったことは（患者の反応も含む）（回答件数：45件）

十分説明しているから困らない	23
患者が搬送をいやがる	14
必要性の説明に苦労	2
医師の説明の違い	2
家族と意見が異なる	1
病院への距離遠い	1
病院を間違えて搬送された	1
搬送したことがない	1

9）分娩後新生児を他施設へ搬送した数

回答項目	回答数	有回答の割合
a. 0回	131	65.17%
b. 1〜10 回	70	34.83%
計	199	100%

（無回答35）

10）分娩後母体を他施設へ搬送した数

回答項目	回答数	有回答の割合
a. 0回	164	83.25%
b. 1〜10 回	33	16.75%
計	197	197

（無回答39）

11）妊産婦へのリスクの説明や異常が起こった際の対処の説明はいつどのような方法で行っているか。（回答件数：171件）

初診時	43
外来で	33
嘱託医受診時	4
母親教室、8−9ヶ月	5
起こりそうな時点で早く	25
発生時	42
ケースバイケース	1
その他	25

12）妊娠経過中、リスクの高い妊娠（例：妊娠中毒症、IUGR、羊水過少、双胎など）として高次医療機関での分娩を勧める症例がありますか。

回答項目	回答数	有回答の割合
a. な し	61	29.76%
b. あ り	144	70.24%
計	205	100%

（無回答31）

イ．年間何例程度ありますか　　（144件中）

例　数	回答数	割　合
1例	39	36.11%
2例	28	25.93%
3例	15	13.89%
4例	6	5.56%
5例	12	11.11%
6例	2	1.85%
10例以上	6	5.56%
計	108	100.00%

（無回答36）

ロ．具体的に多い病態を4例リストアップして下さい。

多胎・双胎	74	胎盤早期剥離	4
妊娠中毒症	71	合併症（心疾患・てんかんなど）	4
骨盤位・胎位異常	41	Rh不適合妊娠	3
IUGR	32	微弱陣痛	3
流産・早産	15	DM合併	3
前置胎盤	14	肥満	3
前回帝王切開	11	LFD	2
貧血	10	癒着胎盤	2
羊水過多・過少	10	発熱	2
過期・予定日超過	8	奇形	2
PROM	7	前回分娩異常	2
CPD	5	精神不安	2
高年初産	4	児頭下降不良	1

新生児黄疸　肝機能異常　NST異常　筋腫　腹痛　リスク重複
自然分娩不可能　胎児が低位置　性器ヘルペス

ハ．いつ紹介しますか　（回答件数：131件）

様々な回答が寄せられた。発見時との回答が多かった。

13）分娩中に嘱託医師の指示により、血管確保をする場合がありますか。

回答項目	回答数	有回答の割合
a. な　し	158	75.96%
b. あ　り	50	24.04%
計	208	100.00%

（無回答28）

血管確保をするのは、どのような場合ですか　（回答件数：54件）

出血の多いとき	34
貧血のあるとき	3
巨大児	2
遷延分娩	2
体力消耗のとき	1
医師の指示にて	4
必要時には搬送する	1
今までなかった	4
その他（双胎・促進剤・母体搬送のため）	

Ⅲ．契約産婦人科医師（後方支援産婦人科医師）について

1．契約医師と年間何回程度意見交換するか

回答項目	回答数	有回答の割合
a.　0回	17	9.24%
b.　1ー 5	97	52.72%
c.　6ー10	23	12.50%
d.　11ー	47	25.54%
計	184	100%

（無回答52）

あり回答184件のうち52.7%が年間１ー５回と答えている。
47件25.4%が月１回程度意見交換している。
意見交換のなかったのは17件、9.2 %であった。

2．契約医師（施設）の数

回答項目	回答数	有回答の割合
a.　0人	9	4.74%
b.　1ー 2	144	75.79%
c.　3ー 5	28	14.74%
d.　6ー	9	4.74%
計	190	100%

（無回答46）

3．契約産婦人科医の年齢

回答項目	回答数	有回答の割合
a. 20歳代	1	0.53%
b. 30歳代	9	4.74%
c. 40歳代	58	30.53%
d. 50歳代	67	35.26%
e. 60歳代	31	16.32%
f. 70歳ー	24	12.63%
計	190	100%

（無回答46）

40ー50歳代が過半数を占めている。

4．契約産婦人科医の分娩取り扱いの有無

回答項目	回答数	有回答の割合
a. あ　り	136	72.34%
b. な　し	52	27.66%
計	188	100%

（無回答48）

あり回答の188件の内27.7%が分娩を取り扱っていない。

5．契約産婦人科医の入院施設の有無（施設の規模：医院・病院）

回答項目	回答数	有回答の割合
a. あ　り	164	86.32%
b. な　し	26	13.68%
計	190	100.00%

（無回答46）

あり回答の190件の内、入院設備を有しているのは86.3%であった。

6．契約産婦人科医との契約期間は

回答項目	回答数	割　合
a.　0年	15	9.80%
b.　1ー 2	19	8.10%
c.　3ー 5	20	8.50%
d.　6ー	99	41.90%
計	153	100.00%

（無回答83）

7．契約に経済的裏付けがあるか

回答項目	回答数	有回答の割合
a. あ　り	33	17.74%
b. な　し	153	82.26%
計	186	100%

（無回答50）

あり回答186件の内、経済的に裏付けのあるのは17.7%に過ぎなかった。
医師の好意に頼っているのであろう。

8．契約の確認

回答項目	回答数	有回答の割合
a. 口　頭	97	51.90%
b. 文　書	90	48.10%
計	187	100%

（無回答49）

あり回答187件の内、51.9 %が口頭による依頼であり、文書による依頼は48.1 % に過ぎない。
無回答が多い（20%）のも考慮に入れなければならない。

9．契約産婦人科医に依頼している診療内容は　（回答件数：179件）
様々な回答が寄せられた。

10．契約産婦人科医に業務内容を説明されているか

回答項目	回答数	割　合
a. い　る	165	87.77%
b. いない	23	12.23%
計	188	100.00%

（無回答48）

11. 契約産婦人科医が不在の場合はどうするか　(回答件数：176件)

公的病院などに依頼	69
契約施設には複数医師がいる	41
複数医師と契約している	40
必ず連絡とれるようにしている	19
産科救急システム	1
今までになかった	6

12. 契約産婦人科医への要望　(回答件数：99件)

良くしていただいて感謝している	46
現状で可	7
紹介システムを望む	3
救急センターがほしい	2
オープンシステム（機器使用など）	2
分娩後患者さんを返して欲しい	4
もっと協力して欲しい	19
助産婦をもっと理解をしてほしい	3
医師間の治療方針の統一を	2
患者・家族への対応に気を付けてほしい	2
検査結果を書面で書いてほしい	
妊婦健診時の母子健康手帳への記載をしてほしい	
緊急時の薬剤使用許可をもらっておきたい	
進んでいる検査項目など採用してほしい	
経腟分娩でよいと思っても帝王切開されてしまう	
病院の利益ばかりでなく、利用者の立場に立ってほしい	

Ⅳ　施設分娩との比較から

助産所の長所は（施設、サービスなど）	%
・リラックスしている、家庭的である	34
・患者さんとのコミュニケーションが良い、ゆっくりと話せる	23
・患者さんの希望に沿った個別のサービスができる	22
・精神面も含めたきめこまかい指導ができる	20
・助産婦がずっとそばに付いて十分な看護ができる	18
・無理のない自然分娩	11
・家族とのコミュニケーションが良い、立ち会い分娩ができる	11
・母乳指導がよい、母乳が良く出る	9
・余分なこと（医療行為）をしない	7
・分娩後子育て支援までの長期間のケアが得られる	7
・母児同室が良い	5
・家族や子連れで入院できる	5
・食事がうまい	4
・待ち時間が少ない	3
・地域に密着している	2
・小さいから迷わない、導線短い	2
・自宅で出産できる安心感がある	1
・家族全体の把握が可能	1

助産所の短所は	%
・急変時あるいは異常発見時の医療処置が遅れる。搬送に手間取る。不安である	38
・医療行為ができない、薬が使えない、保険がきかない	12
・機器、設備、スタッフが不十分	11
・医療行為は嘱託医などに依頼するためワンクッション遅れる	6
・狭い、古い、施設が不十分	4
・日・祝日に医師と連絡とれない、忙しくて来てもらえない	3
・児搬送の場合母児分離となる	2
・陣痛時の声、近所に迷惑をかけている	2
・数をこなせない	2
・無料健診票が使えない	1
・微弱陣痛の場合時間がかかることがある	1

助産所のサービスに関する短所	%
・サービスに関する限り短所は全くない	8
・体力的に大変、夜間休日も拘束されて他の用事ができない	5
・相性（妊婦・助産婦間の）が悪いと良くない	3
・家族の理解と協力が必要	2
・人と関わりを持ちたくない人には迷惑かも	1
・医療の進歩に付いていけるか不安	1

病院・診療所などの施設分娩に対する患者さんの不満は？	%
・乳房のマッサージが不十分。母乳指導が不十分ですぐミルクにする	23
・陣痛室や分娩台でひとりぼっちにされてしまう	21
・インフォームドコンセント、説明不足	21
・会陰切開の不満。すぐに切る、痛い。説明無く切開される	19
・待ち時間が長く診察時間が短い	15
・コミュニケーションが不良、希望を聞いて貰えない	14
・流れ作業で行われ、機械的、事務的である	13
・不必要な医療介入（血管確保、誘発、切開、剃毛、浣腸）	12
・医師に質問できない（忙しい、怖い）	11
・怒られた、返事が冷たい、言葉に傷ついた、術後の痛みに当然と言われた	10
・勤務交代で人が変わる。継続したサポートがない	7
・出産後すぐに赤ちゃんと離された	6
・職員間の指導、説明の不一致	6
・誰に聞けば良いのか、相談できない、みな忙しそう	5
・同一の医師に継続してみて貰えない	5
・分娩監視装置で身動きができない	5
・母児異室である	5
・帝王切開されてしまう	5
・すぐ薬を使う	5
・指導で疲れる、産後なのに忙しい	5
・家族の参加ができない、そばに付けない	4
・食事がまずい	3
・退院後のフォローが不十分である	3
・分娩室の環境（器具の音、ライト）に心配りがない	1
・仰臥位はつらい、屈辱的である	1

周産期救急医療システムへの要望は？
・地域の救急医療システムに助産所も組み入れて欲しい
・前もって受診していなくとも救急時快く受け入れて欲しい
・急変時に高次医療施設に直接搬送できるシステムが欲しい
・いかなる場合もオープンな窓口を
・受け入れを断らないで欲しい
・ドクターカーを配置して欲しい
・現行では原則として契約医師を介して搬送、紹介状必要となっている
・医師を招き診療後という時間のロスが惜しい
・ちょっと診て欲しいと言うときに気軽に診てくれる病・医院が欲しい
・助産婦が行うケアを信じて嘱託医制度を充実して欲しい
・自宅分娩の妊婦の近くの病院が嘱託医となって欲しい
・現在医大病院や近くの総合病院が受け入れてくれるので感謝
・医師・助産師・助産所のコミュニケーションの場が欲しい
・助産所の立場を考えて説明して欲しい、悪く言わないで
・「送るのが遅すぎる」とか「この程度で送るのか」と言わないで欲しい
・助産所でお産予定というと扱いが悪い。流産も見てくれない